

「現代社会と経営戦略と組織」

Current Society and Business Strategy and Organization

佐伯 力

Isao Saeki

研究成果は、次の2つの論文から成り立っている。

(1) 「戦略的革新と経営生産のパラドックスな成長」

(Strategic Innovation and Paradoxical Growth of Corporate Production)

大阪産業大学経営論集第2巻第2号 平成13年2月。

(2) 「循環型経済社会と日本型生産モデル」

(Circulative Economic Society and Japanese Production Model)

大阪産業大学経営論集第3巻第1号 平成13年10月。

(1) についての概要。

この論文は、(1)国際市場の成長と変化、(2)戦略的革新の意義、(3)VTR市場でのVHS方式とベーター方式、(4)経営生産へのパラドックスなアプローチの4つの章から構成されている。

戦略的革新と経営生産（企業生産）のパラドックスな成長との相互関連を、経営生産の歴史的発展の上で考察したものである。現代社会の特徴を国際市場の成長と変化の視点よりまず分析した。経営戦略を戦略的革新の意義と重要性によって探究し、経営生産の革新と発展のパラドックスに満ちた過程の中で、組織を動的に考察して、組織構造、組織過程、そして成果を分析したのである。

業界の知識体系のパラダイムに有利に対応しながら、如何にして競争優位を持続していくかは、経営戦略、生産戦略、経営生産の重要課題である。また技術と知識の革新的進展によってもたらされるパラダイムの形成と変化、そして革新過程が重要である。そこに戦略的革新の重要性がある。経営は戦略的経営、生産は戦略的生産という特質を併せて備える必要がある。VHSとBetamaxの両フォーマットの競争でこれらを考察したのである。一方、経営生産の革新と発展のパラドックスに満ちた過程を、ホンダ自動車の企業経営によって考察したのである。

(2) についての概要。

この論文は、(1)循環型経済社会の構築と戦略的政策的課題、(2)ベスト・プラクティスと動的職場関係、(3)日本型生産モデルの移転とその本質、(4)企業目的の操作的な一つの枠組の4つの章から構成されている。

現代社会、特に経済社会のあるべき姿と経済新生の政策方針の実現に向けた戦略的政策的課題として、IT革命、循環型経済社会、高齢社会の3つがあげられている。その中で、ここでは循環型経済社会の構築をとりあげたのである。

循環型経済社会は、人間活動と環境との関わりから、経済社会の持続可能な発展への道

筋に展開する社会である。循環型社会モデル、新たな日本型生産モデル、日本の経営モデルを日本が率先して世界に示し、経済社会のグリーン化に努力する必要があることを基本的な課題として、現代社会と経営戦略と組織にわたって探究したものである。

日本資本と資本主義的職場関係の一層のグローバル化、日本企業の国際的な戦略的提携と戦略的ネットワークの形成、世界的な競争、そして地球環境問題が進展している。これらの中で、現代社会において日本型生産モデルの新たな発展が重要であり、企業経営の新たな取り組みと革新が必要であることを論じたのである。